



大字中里より大字寒川を望む。2024/06/08

田園環境都市おやまビジョンづくりに向けた
小山市11地区の風土性調査
報告レポート「基礎資料・概要版」

寒川地区の風土性調査について

「風土」とは、地域の自然に対して人間が暮らしと生業を通して働きかけることでかたちづくられる、人々が生きる環境のこと^{*1}を言います。人々が生きる環境、それは私たちの身近な世界、生活世界のこと^{*2}でもあります。

地域の風土(生活世界)を、あらためて把握するために、

- ①地理学や民俗学的な視点で地域を見て歩く「踏査」(現地調査)
- ②アンケートや聞き取りを行う簡易社会調査
- ③小山市史や研究論文などにあたる文献調査

これらを組み合わせた風土性調査を実施しています。

寒川地区は令和6年5月から令和6年7月の期間に調査を行いました。

この概要版は、その調査成果の報告書「寒川地区 基礎資料」から主なトピックを抜粋し、一部に加筆を加えたものです。報告書の完全版(A4版72ページ)やアンケート集計結果報告書(同・32ページ)は、最後に紹介するリンクから閲覧ができます。

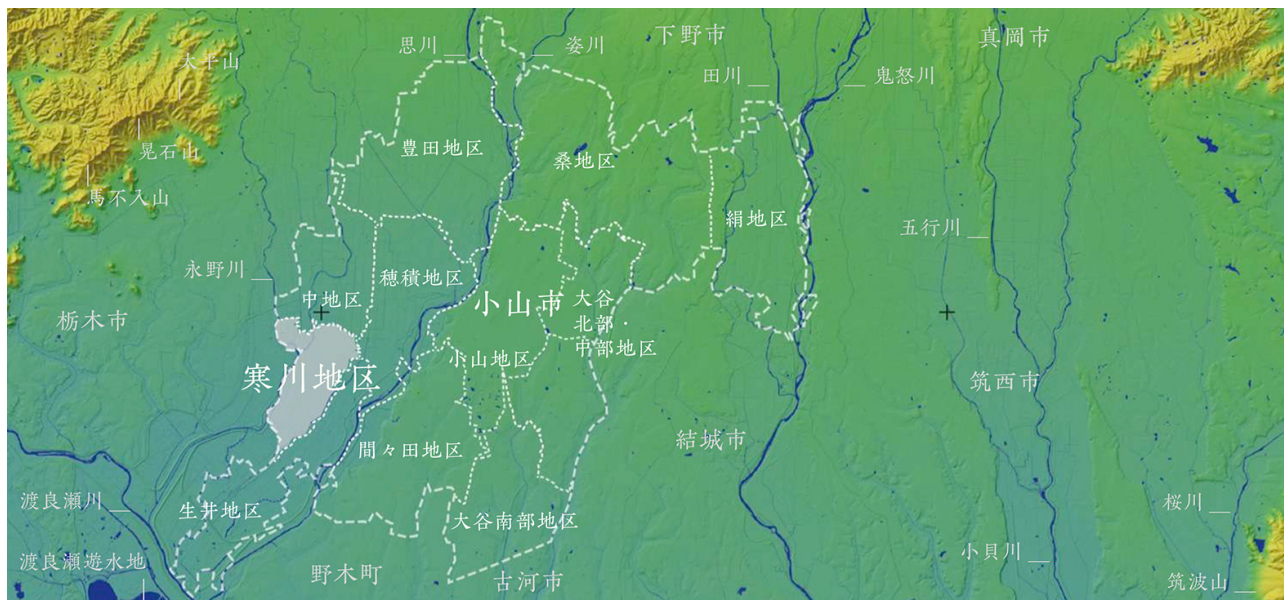
^{*1}註1: 出典 藺田稔編『神道』(弘文堂、1988年)

^{*2}註2: 出典 アルフレッド・シュッツ、トーマス・ルックマン『生活世界の構造』(筑摩書房、2015年)

1 | 寒川地区の概況

小山市の基本地形と寒川地区の位置

西から思川低地、宝木(たからぎ)台地、鬼怒川低地が並び、宝木台地の東を鬼怒川、西を思川が流れています。寒川地区は小山市の西部に位置し、思川低地上に立地しています。



出展 | 国土地理院 地理院地図 <http://maps.gis.go.jp/> (廣瀬改変2024年)

小山市の西部に位置。
前方後円墳が集中し、古代には
郡名を冠せられた歴史を持つ。

寒川地区は、明治22年(1889)の町村制施行にあたり寒川郡が廃され、同郡中里、鏡、寒川、迫間田村が下都賀郡に編入して同群の押切村と組織した新しい村、寒川村をもととします。地区の面積6.44km²は市の面積の約3.7%、人口1,222人は市の人口の約0.7%を占めます(令和6年4月1日現在。「小山市統計年報令和6年度版」より)。現在の小山市域に弥生文化が波及したのは弥生時代中期前半で、以降の寒川古墳群に見られる前方後円墳の集中は、寒川地区における水稻稲作を中心とした農業生産力の高さに基づくと考えられています。8世紀前半には思川西部に下野国府が置かれ、南側に条里制がしかれ、当地区も対象に含まれました。この頃、寒川の名は郡名に冠せられ、胸形神社が官社(延喜式の式内社)に選ばれています。中世には郡内の一部が伊勢神宮との関係を持ち、近世には野木から栃木へ抜ける日光山裏道と巴波川の水運を擁しました。寒川地区は、こうした歴史を経て今日に至ります。

2 | 知的な営みの積み重なりが記録と風景に残る

胸形神社の境内には、8世紀に編さんされた『万葉集』所収の歌の碑が建てられています。歌は、寒川郡の先人、川上臣老が防人の任に着いた際に詠んだものです。また、同じ時代に、下野国府造営のために都の技術が持ち込まれる中、寒川では川を活かして良質の紙が製造されるようになったと伝えられます。



鏡神社。鏡。2024/06/10



観音寺。鏡。2024/06/10

万葉歌碑が建ち、
新撰万葉集を編んだと伝わる
菅原道真ゆかりの行事が今に。

中里神社には、磯辺儀兵衛隆信による装飾彫刻が施されています。古御門神社や鏡神社にも、精巧な装飾彫刻が見られます。観音寺には、竜宮門をかたどった鐘楼門があり、人間国宝香取正彦作の梵鐘が下げられています。近世以降、虚空のように果てなく広がる知恵を持つとして信仰されてきた、虚空蔵菩薩を知恵の神様として祀る星宮神社も当地区に建っています。佐野市の星宮神社には、和算の問題と解法を記した算額の現存最古のものが奉納されていますが、河川交通が発達していたためか現在の小山市域では数々の和算家が輩出されたといい、寒川では塚田宗川が生誕しています。また、古代の官社とされた胸形神社に合祀された天満宮は、学問・文化芸術の神様として菅原道真を祀り、その命日の行事である花桶かつぎが受け継がれています。寒川小学校PTAが、栃木県PTA連合会の「研究PTA」事業により委嘱されて地誌「ふるさと寒川」とその第2集を1988年、1991年に執筆、発行していることも、当地区で積み重ねられてきた知的な営みの一つに数えられます。

3 | 渡り鳥にとっても大切な地区の農地

思川低地の一角を占め、東西を川に挟まれた当地区では、紀元前1世紀頃に始まる弥生時代中期の前半より一貫して、地域環境に即した、低湿地で水稻、微高地でその他の穀物や野菜を育てる土地利用が行われてきました。当地区では、現在まで2100年もの間、食料の供給と、自然に準じた環境を保つことでの大気質や気候の調整、生物の生息・生育地の確保といった自然の恵み(生態系サービス)を受け続けられています。



小山市内の思川低地を訪れるシギ・チドリ類の例。寒川地区で比較的良好に見かけられるタシギ(左)とムナグロ(右)(図版中)



キアシシギ(左)と「なつみずたんぼ」実施地の例(右)。写真は4点とも鈴木由清(山鳥舎)撮影

低湿地は、つねに水がある湿田にできました。ただし、湿田での作業には労苦が伴い、明治時代に入って圃場整備が進められる中で乾田化が図られました。低湿地の環境は、一度大きく変わりました。しかし、今日では、冬期と夏期に湛水される農地が、寒川地区および他の思川低地の地区で一定量あり、寒川地区や市内の他の地区を含む栃木県南部水田地帯は、シギ・チドリ類などの渡り性水鳥が使う「東アジア・オーストラリア地域フライウェイ」における休息や採餌の場としての位置を占めています。このことは、乾田や、収穫を終えた麦畑を短期的に湿地に戻す、夏期の湛水事業「なつみずたんぼ」の効果に関する調査などから、確認されています。以上は、思川低地の他の地区にも当てはまることですが、代表して寒川地区の説明でふれることにしました。



定期的に長距離を移動する渡り鳥のうち、シギ・チドリ類などの渡り性水鳥は、彼らが休息し餌を採る湿地を結ぶ経路を毎年移動しています。「東アジア・オーストラリア地域フライウェイ」は、渡り性の水鳥が行き来する渡りのルートの中でも最大規模のフライウェイとして知られています(図版出典は、寒川地区基礎資料本編22頁を参照)。

4 | 寒川地区での暮らしと意識

前半で概況を紹介したような地形や都市の形成の歴史の上に、人々はどんな意識でどのような暮らしを営んでいるのでしょうか。寒川自治会のご協力で、6月から7月にかけて自治会回覧などを通してアンケートを配布し、111名から回答をいただきました。インターネット上でも60名の方から回答をいただきました。また、17名の方に聞き取り調査にご協力をいただきました。その成果から一部を抜粋し、この章では住民の方々の声も交えながら紹介します。

4-1 アンケート調査からの報告

アンケートの設問【1】【2】の集計結果をもとに、寒川地区で暮らす人々の①出身地、移り住んだ経緯や理由、②生活圏、③地域資源への認知度・関心度についてまとめました。

①回答者の出身地



自治会の回覧を通してのアンケートでは、地元出身の方のご回答が多くなりますが、寒川地区でも回答者の6割近い方が寒川地区で生まれた方でした。地区外から移り住んだ方の理由は、記載されたコメントによると、①実家や親との関係で ②結婚を機に ③仕事の関係で・・・という理由が上位を占めています。

②生活圏

以下の3種類の行動で出かける地域を訪ねた質問の回答、上位3地域を示します。休みの日についての問いは2つ選択可とし、表の数字は回答者のうち何%がその地域を選んだかを表します。寒川地区では、日常生活においては、間々田地区と栃木市との行き来が多く、特別な買い物などは小山地区へ出かける人が多くなります。休日の自然の中での余暇活動においては、寒川地区を挙げている人、また3項目ともに野木町に出かける人が一定数いることも特徴です。

日常的 買い物・・・	1 間々田地区	29.8%
	2 栃木市	23.4%
	3 小山地区(駅西)	14.6%
休日の特別な 買い物や食事など	1 小山地区(駅東)	39.8%
	2 小山地区(駅西)	31.6%
	3 栃木市	22.8%
休日の自然の中 などでの余暇	1 栃木市	20.5%
	2 栃木県内*	18.1%
	3 寒川地区	11.1%

*栃木県内：選択肢に挙げている栃木市と野木町以外の市町

③地域資源への認知度・関心度

寒川地区は、歴史的資源、自然環境、農業の3項目に対する認知度(知っている)が、この調査を行った全11地区の中で最も高く関心度も高めで、地区の資源を大切に考えている人が多いことが窺えます。

1 地区の歴史や史跡、寺社、祭りなどを……

知っている				知らない				関心がある				関心がない			
60%				37%				59%				39%			
よく	まあ	あまり	全く	よく	まあ	あまり	全く	とても	まあ	あまり	全く	とても	まあ	あまり	全く
6%	54%	32%	5%	9%	50%	33%	6%	9%	50%	33%	6%	9%	50%	33%	6%

2 公園、街路樹、平地林などまちなかに残る自然を……

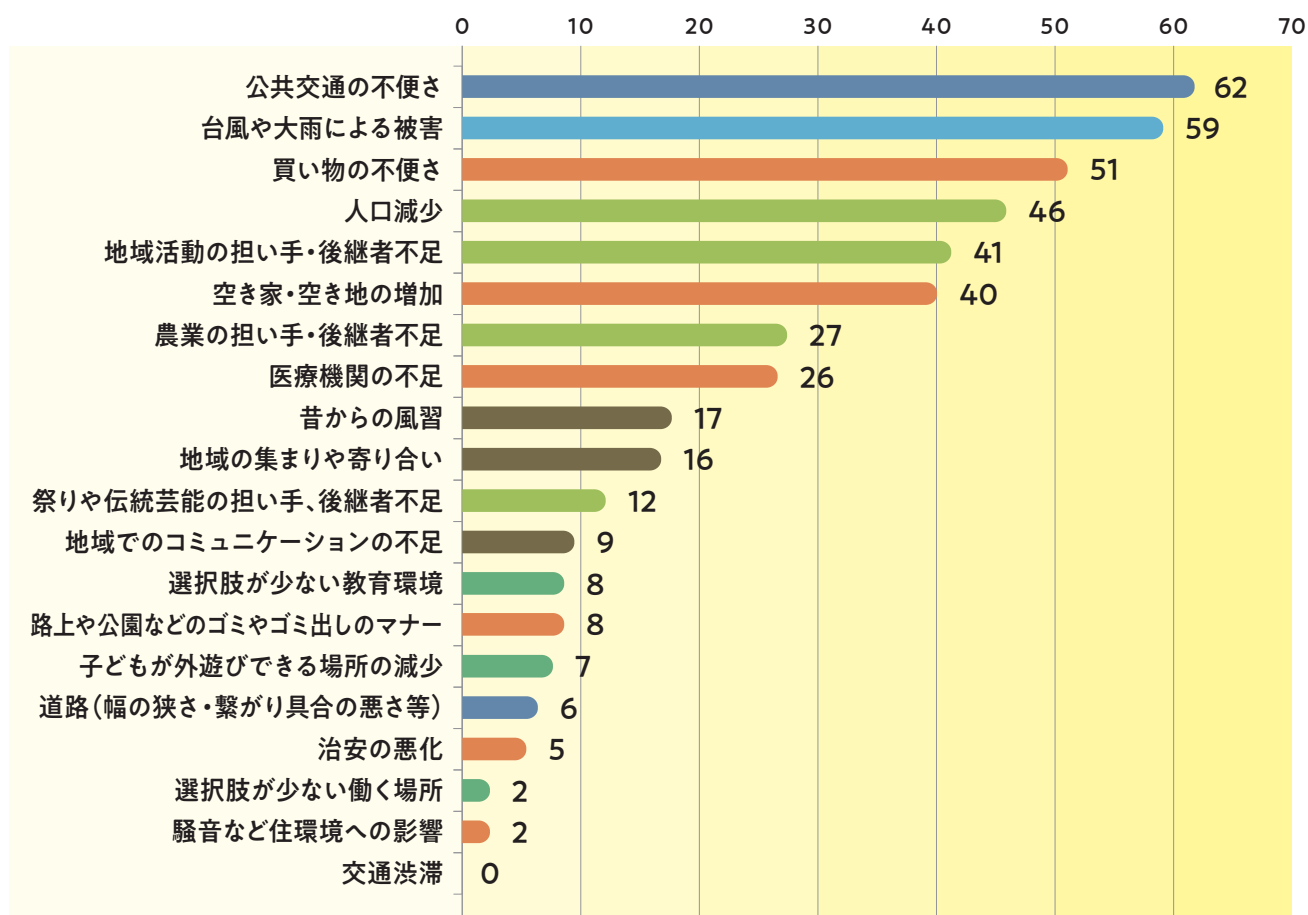
知っている				知らない				関心がある				関心がない			
50%				49%				59%				40%			
よく	まあ	あまり	全く	よく	まあ	あまり	全く	とても	まあ	あまり	全く	とても	まあ	あまり	全く
11%	39%	41%	8%	12%	47%	32%	8%	12%	47%	32%	8%	12%	47%	32%	8%

3 地区で行われている農業について……

知っている				知らない				関心がある				関心がない			
62%				35%				53%				45%			
よく	まあ	あまり	全く	よく	まあ	あまり	全く	とても	まあ	あまり	全く	とても	まあ	あまり	全く
15%	47%	29%	6%	12%	41%	36%	9%	12%	41%	36%	9%	12%	41%	36%	9%

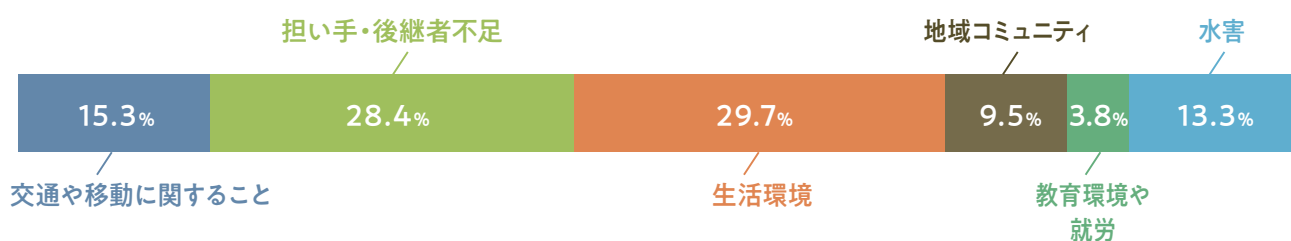
4-2 無くしたい、解消したい、寒川地区の困りごと

アンケートの設問【4】で「無くしたい、解消したい、解決したい困りごとは、何でしょうか?」と問い、聞き取りをもとに用意した選択肢から3つを選んでもらいました



数字は回答者数。その他3名、無記入7名。

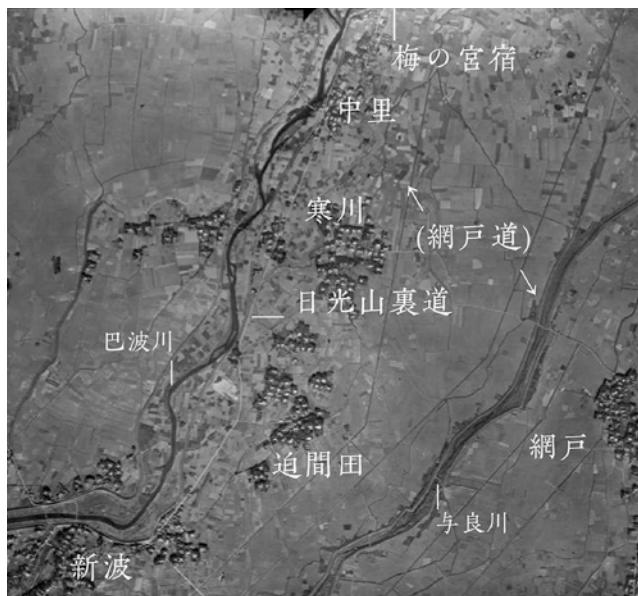
その他と無記入を除いた選択肢を、6つの領域に分けて全体に占める割合を出してみると……。



生活の利便性の向上を願う

寒川地区の集計結果において20の選択肢を6つの領域に分けて割合を出すと、「移動の不便さ(バスが走っていない)」、「生活の不便さ(買い物・医療・上下水道の問題など)」、そして若い世代の流出や人口減少に伴う「担い手不足」という3つの領域で75%近くを占めています。また、2度、水害の被害に遭っていることから、選択肢の中でも最多の「公共交通の不便さ」に次いで「台風や大雨による被害」があがっています。次のページでは、これらの困りごとに関して、アンケートの自由記述欄に寄せられたコメントを紹介します。

昔の街道について：風土性調査報告「寒川地区 基礎資料」(II踏査及び文献調査による報告)より。



寒川地区の日光山裏道。空中写真。1947/11/01



日光山裏道。この区間では直線状に通される。中里。2024/06/08



集落内の道路。微地形に沿って屈曲する。寒川。2024/06/08

「野木から下生井—新波—梅の宮を経て例幣使街道の
栃木宿か茂呂宿へとぬける道は、日光山裏街道、
または近裏道といい日光・栃木方面への間道として
利用」。寒川地区の村々も通りました。

出典：国土地理院 | 地図・空中写真閲覧サービス <https://maps.gsi.go.jp> (2024-08-28 参照)。小山市史編さん委員会編『小山市史通史編 II 近世』小山市、1986年、261頁

寒川地区の解消したい困りごとについて、アンケートの設問【4】に寄せられた自由記述から抜粋して紹介します。

子どもが高校に進学する時に
交通手段がない

—アンケート【4】自由記述より

移動の不便さ・生活の不便さ

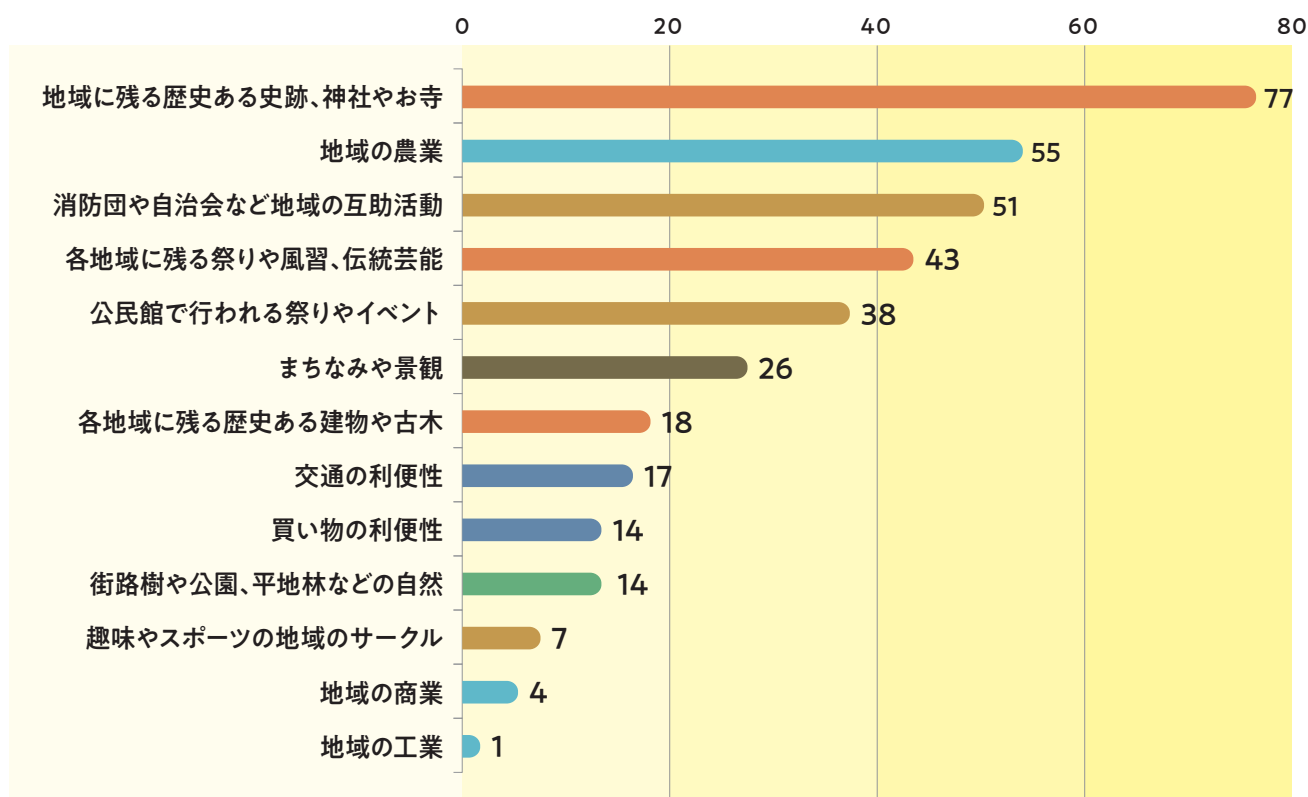
- とにかく寒川地区は小山市の中でも置き去りにされているように感じる
- 歴史のある地域なのにエアポケットのように公共機関の交通手段がない。住みたいという人はいないと思う(外から)。車の免許を返納した後の買い物、通院等、単身世帯だと、どこまで生活していけるのか。足が弱りバスも大変になってくると、家での生活はここではできないのだろうと思う
- 買い物は自動車がないと行けない。歳をとったときに不安。地域医療の要である医院の閉鎖の話が聞こえてきた
- 何をするにも施設が遠く不便である

人口減少・担い手や後継者の不足

- 人口減少は全国的にも深刻な課題。早く解決していかないと、すべてが成り立たなくなってしまう。多くの若者が結婚して子どもを産んで、寒川で育ててほしい
- 新しいことを始めないと、人口は減るばかりだと思う。昔からのものにこだわりすぎ。昔からのものを残すなら、今の流れも取り入れたりして残さないと魅力はないと思う
- 2度も水害にも遭い、高齢者が増える一方で、調整区域のため新しい世帯が増えていかない。学校も年々児童数は減少し、活気がなく感じる。農業も後継者不足で、いつまで続けていけるのだろうか

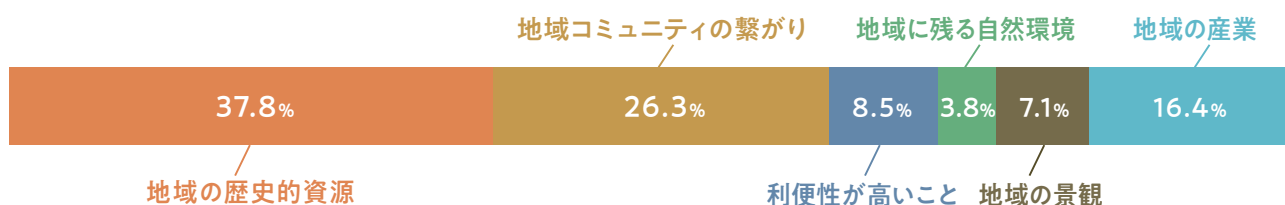
4-3 大切に守っていききたい、寒川地区の小さな自慢

アンケートの設問【5】で「大切に守っていききたい「小さな自慢」は何でしょうか?」と問い、聞き取りをもとに用意した選択肢から3つを選んでもらいました。



数字は回答者数。その他11名、無記入22名。

その他と無記入を除いた選択肢を、6つの領域に分けて全体に占める割合を出してみると……



この設問の結果から、寒川地区の皆さんは、特に「先代が残してくれた地域の寺社、地域の農業、そして、地域の互助活動」を大切に守っていきたいと考えていることが見えてきます。アンケート集計報告書に記載した、年代別の結果では、全ての年代を通して「歴史的な史跡や寺社」が1位に挙げられ、40代以上では、「地域の農業」が上位3項目の中に入っています。母数が少ない20代30代を除くと、「地域の互助活動」は、年代が高くなるにつれ、上位に入る傾向が見られています。

寒川小学校のビオトープ：風土性調査報告「寒川地区 基礎資料」(II踏査及び文献調査による報告)より。



寒川小学校「田んぼの学校」のビオトープ(観察池)と田んぼ。中里。2024/05/20

「20年前にやはり実行委員の皆様。地域の皆様の
手で作られたビオトープですが、近年は (後略)」
「そんな中、(中略) ビオトープが生まれ変わりました」
「この先20年、30年と受け継がれていく (中略) と確信」

出典: 寒川小学校編・発行「寒川小だより 伸樹」861号、2022年3月24日、1頁

寒川地区の大切に守りたいことについて、アンケートの設問【5】に寄せられた自由記述から抜粋して紹介します。

公園で春に見られる桜が好きだから
大切に守りたい。公園には、
子どもが小さい頃の思い出がある

——アンケート【5】自由記述より

歴史的な地域資源の保全と継承

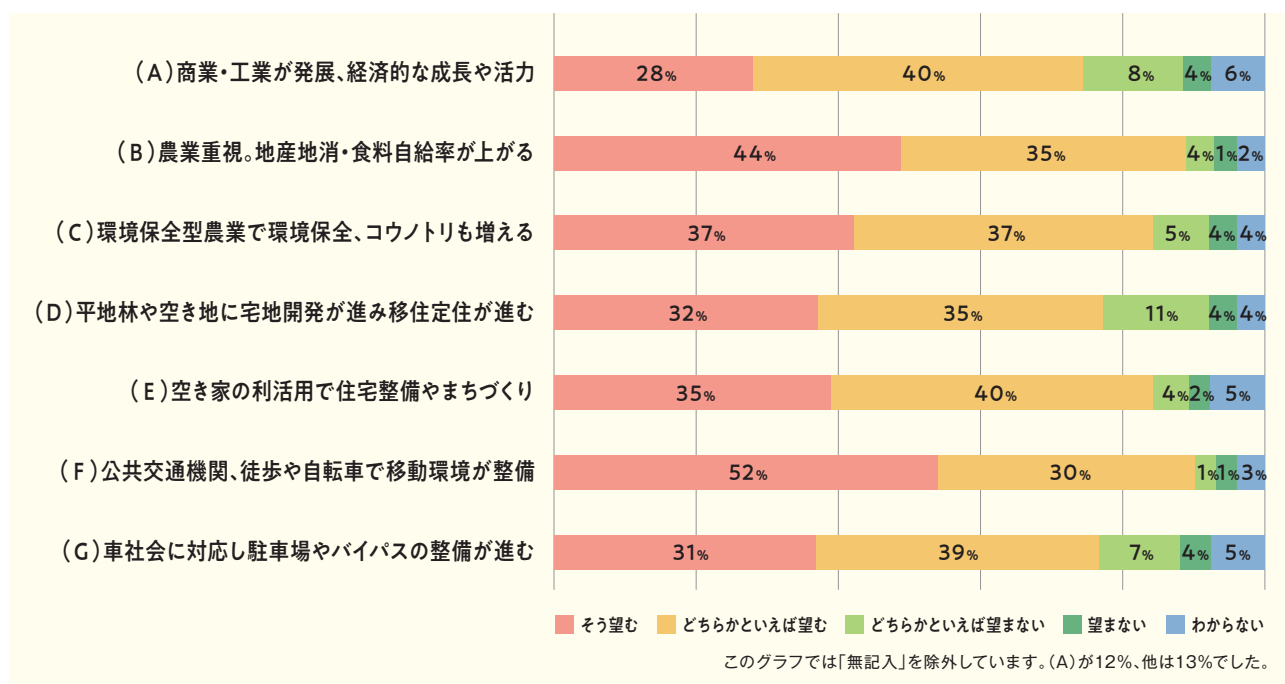
- 長い伝統を発展的に維持していきたい
- 胸形神社はかなり古い歴史があると聞いていますので残してほしいと思う
- 胸形神社や中里神社といった歴史ある史跡、花桶かつぎといった伝統芸能はあっても、継承していく人物が減っていくのは課題だと思う
- 胸形神社、花桶かつぎ祭り、どんどん焼、ウォーキング、桜祭りは大切に守ってきたい

地域のコミュニティや教育環境など

- 小さな集落で老人化するなか地域の楽しみなどなくてはならないものだから、公民館のイベントや催事は大切。足の衰えた方やイベント会場へ来られない方など、どうにかならないか考えたい
- 寒川地区の“小さな自慢”といったら、緑豊かな田園地帯と、澄み切った空気と、豊かな水の、絵になるような風景。そして、そこに住む人々の人情味あふれた生活だと思います。どんなに世代が変わっていても、寒川地区に住む人々が人間らしく、心豊かに明るくのびのびと毎日の暮らしを営んでいけると、切に思います
- 教育環境としては、静かで、教育に生かせる教材がたくさんあると思う。子どもたちを大切に育むためにも学校は残すべきだと思う

5 | 田園環境と都市環境の調和がとれたまちづくりへ(1)

次に、アンケート集計結果より、「20年後、30年後の小山市の望ましい都市環境のあり方について」尋ねた【7】の結果を紹介します。例示した小山市の将来像7項目について、それぞれ「そう望む・どちらかと言えば望む・どちらかと言えば望まない・望まない・わからない」から選んでいただきました。寒川地区の皆さんからの、未来の小山市への視点です。



7項目の全文は、以下の通り。(A) 商業・工業が発展し、工業団地も増え経済的な成長や活力が重んじられている小山市 (B) 地域の農業が大切にされ、地産地消が進み、市域内の食料自給率が上がっている小山市 (C) 環境保全型の農業によって自然環境も良好に保たれ、コウノトリも増えている小山市 (D) 空き地や平地林などに新しい宅地開発が進み、定住する若い世代や移住者が増える小山市 (E) 空き家の改修や利活用が進み、あるものを大切にしたい住宅整備やまちづくりが進む小山市 (F) 公共交通機関の整備や、徒歩や自転車で安全・快適に移動できるまちづくりが進む小山市 (G) 車社会に対応して、駐車場やバイパスの整備など、車での移動が快適になる小山市

田園地帯での共通性と間々田地区の特性

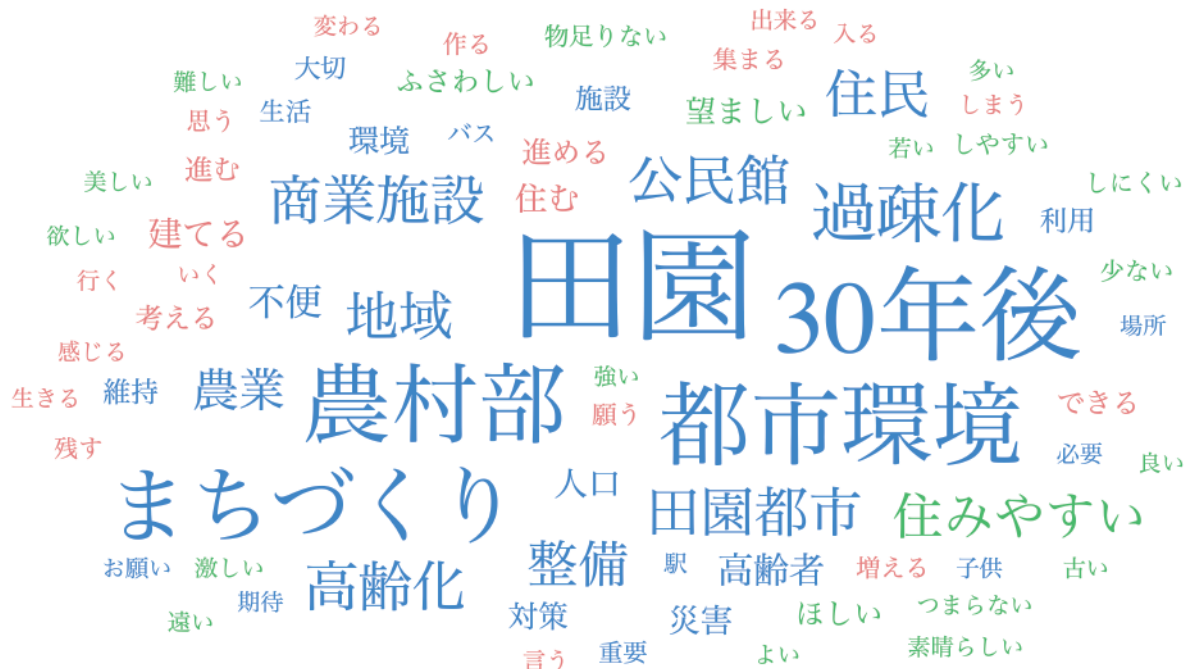
7つの項目を支持・共感者が多い順(「そう望む」「どちらかと言えば望む」の割合の合計が高い順)に並べると、寒川地区の結果は以下になります

- 1 82% (52) (F) 公共交通機関の整備や、徒歩や自転車で安全・快適に移動できるまちづくりが進む
- 2 79% (44) (B) 地域の農業が大切にされ、地産地消が進み、市域内の食料自給率が上がっている
- 3 75% (35) (E) 空き家の改修や利活用が進み、あるものを大切にしたい住宅整備やまちづくりが進む
- 4 74% (37) (C) 環境保全型の農業によって自然環境も良好に保たれ、コウノトリも増えている
- 5 70% (31) (G) 車社会に対応して、駐車場やバイパスの整備など、車での移動が快適になる
- 6 68% (28) (A) 商業・工業が発展し、工業団地も増え経済的な成長や活力が重んじられている
- 7 67% (32) (D) 空き地や平地林などに新しい宅地開発が進み、定住する若い世代や移住者が増える

都市部でも田園部でも上位3項目に「公共交通機関の整備」「農業重視」「空き家の利活用」の順で並ぶ傾向が見られます。寒川地区と同様に過疎化への心配の声が多かった絹地区と比較すると、支持率が4位から6位の順位に違いが見られます。(A) 商業・工業の発展などを望む項目は、絹地区は4位、寒川地区は6位、(C) 環境保全型の農業と自然環境の保全を望む声は、絹地区は5位、寒川地区は4位となっています。

6 田園環境と都市環境の調和が取れたまちづくりへ(2)

次に設問【7】の自由記述欄(30年後へのご意見)に寄せられたコメント全件で多用された言葉を紹介します。テキストマイニングという解析ツールによるキーワードの抽出です。基本的には語られた回数が多いもので大きく表示され、調査対象に特徴的に使用される固有の単語は重視される統計処理法が用いられています。一つの参考としてご覧ください。



アンケート調査【4】大切なもの【5】困りごと【7】未来の姿へのご意見5920字から抽出(※ユーザーローカルAIテキストマイニングによる分析(<https://textmining.userlocal.jp/>))

望ましい寒川地区や小山市の未来の姿

設問【7】の自由記述欄に寄せられたご意見から一部を抜粋して紹介します。

●物が豊かになり、生活も安定して、何の不便さもない暮らしになっていくと、人と人とのつながりが希薄になり、助け合い、支え合って生きて行くという人として最高の幸せを感じられなくなってしまうのではないだろうか？多少の不便さがあっても、お互いに助け合い支え合って、心豊かにおだやかに過ごせる。そんな寒川地区にしたい。他県からも移住してくるような魅力ある農業体験型の宿泊施設を作り、四季折々の野菜作りやいちごやお米など作り、若い人が移住してもらえるような環境づくりをしてほしいです。それには、最低でも近くに病院とスーパーが、そしてみんなが集まるきれいな公園があったらいいなあと思います ●水と空気がきれいな町であってほしいです ●自然環境の保全は大切だが「コウノトリが増える」という事にこだわる必要はない。もっと違う自然環境保全もあると思う ●都市環境を持つエリアにお店等が集中しているので、車で移動できるうちは感じないが、買い物難民が出ないよう郊外に住む高齢者も安心して生活できるようなシステムを考えてほしい ●新しい道路を作りすぎる。今まで通っている道路を整備してほしい ●都市部と農村部の公共交通機関の充実が農村部の過疎化の防止に繋がる。住民の高齢化は必至なので、都市部の老人が農村部の野菜を生産者から直接購入できる、あるいは農村部の住民が市役所や大規模小売店や病院に容易にアクセスできるように、住民の移動の容易性を最大限に上げれば、市としての一体化・発展が可能になるのではないかと

AからGの項目は小山市の30年後としては夢がない。これらは今の課題では無いかと思う。もっと若い方が夢を持って生活できる市の未来を考えたい

7 | グループインタビューでのご意見

寒川地区の風土性調査では、自治会長の方々、子育て世代の方々、農業従事者の方々の合計17名に、座談会形式のグループインタビューで聞き取り調査にご協力をいただきました。そこで語られた内容から、一部を抜粋して紹介します。

農業と、都市部との関わり

●離農する人が多いのは後継者がいないという理由もあるが、機械が壊れても買い替えられないから、それが理由で辞める人も多い ●若い農家への補助が必要だと思う。書類で落とすようなものではなく一律に。そういうものがあれば農家も、もっと元気になる。今はどん底だと思う ●まち(都市部)の人に理解してほしいことは、農家の大変さ。例えば田園地帯に来た時に、田んぼや畑にゴミを捨てないとか、ゴミ拾いなど清掃活動をしてくれるとか、それだけでも違う ●小山で唯一、敷地内に田んぼとビオトープがある寒川小は自慢 ●まちなかから農村地帯の小学校に子どもを通わせたい親はいるはず。スクールバスをぜひ検討してほしい

地域の変化

●今のように、ゲームだの何だの他にあそびがないから、みんな川に集まって、いろんな子どもが混じり合って外で遊んでいた ●昔は川がどこへ行ってもきれいで、下が見えて、小さいころは川で泳いでいた ●自分たちが子どもの頃は、どこかの家に行っても、じいちゃんばあちゃんがいた。ところが今は、少しでも弱くなると介護施設へ入る。昔だと自宅で葬式をやっていたが、今では葬儀屋さん任せだから、いつ亡くなったのかもわからないまま、誰も住んでいない空き家がどんどん増えていく

生活や子育ての環境

●50年ほどまえに市の補助があつて井戸を作ったから、どこも老朽化している。水道料は安い、不具合が出るとその修理代で大きなお金がかかる ●ポンプが60年もので、しょっちゅう壊れる。なんの前触れもなく断水になって、朝、皿を洗っていたら断水、トイレへ行っていたら断水で、プチパニックになってしまう ●うちの地区では断水は無いが、大雨の後など濁った水が出るので、安全面で心配 ●小学生専用の学童がない。こども園で預かってくれるが送迎がないので、小学校から歩いて一人で移動しないといけないので、1年生では無理…。困っている親が多い ●高校に進学すると、通学のための最寄り駅までとても遠く、バスもないので、親の送迎が必要になり、とても不便に感じる

伝統の継承

●お囃子が盛んだった頃は、各地区それぞれに全部お囃子があった。やはり地区地区で太鼓のたたき方が違い、それが良かった ●月に2、3回、寒川公民館で練習を始めている。どこに住んでいてもいいから、お囃子が好きな人、ということで声をかけていたら5人、6人が集まった。ずっと続いてきたことを、若い人たちに伝えたい ●小山市の無形文化財関係で何とかバックアップが必要ではないか ●子どもが減っていくことは祭りの開催も危うくなるということだが、花桶かづきは、なんとか維持していきたい。

